

「すべては、 東京五輪の ために。」

2017年、 大村朱澄の決意。



▼ますます強くなる五輪への思い
昨年8月にリオデジャネイロ五輪が開催されましたが、私は出場することができませんでした。

10月に開催された「いわて国体」で2冠を達成することができましたが、私にとって、五輪に出場できなかったことはそれ以上に大きな出来事でした。

テレビ画面越しのレースを観て、「自分はどこで何をしているんだろう」という悔しさを感じるとともに、東京五輪では絶対にあの舞台に立ちたいという思いも、より一層強くなりました。

▼自ら環境を変えようという決断

昨年7月から、日本代表での活動を離れて、単独で練習に取り組んでいます。

中学生の時から代表に選出されてきた私にとって、代表は当たり前存在になっていました。そして、そこで高いレベルの練習に取り組み続けることが強くなる方法だと考え、昨年4月から代表での合宿や練習に参加してきました。

しかし、この5年間ベストタイムを更新できていないこともあり、これまでのようにトレーニングを積んでいっても、4年後もまた今回と同じ結果をくり返してしまうのではなにか、という不安を感じるようになりました。

そのような思いを抱いた状態で東京五輪を迎えたくないという気持ちから思い切った環境を変えてみることを決意しました。そして東京五輪を目指す上で今の私が取り組むべきことは、日本代表として国際的な大会に出場することよりも、世界で勝てるように身体を基礎から作り直すことだと考えました。

この決断をすることで、所属先として競技活動をサポートしていただいている「城北信用金庫」に対して貢献できなくなっ

special interview

「自分自身の弱点を見つめ直す」



しまつのでは、という葛藤もありました。しかし、所属先の皆さんは、私の競技への思いをよく理解してくださり、私も競技に集中することができています。

自分自身を見つめ直し、目標達成のために必要なことを判断し、そして実行する。そのことの大切さを実感し、また応援していただいている多くの皆さんへの感謝の気持ちをさらに強いのにした1年でした。

▼東京五輪を目指すための「土台づくり」
今は、昨年8月からの1年間を「フィジカルを作り直す期間」と決めて、ウエイトトレーニングに重点的に取り組み、地道に筋肉量の増加を目指しています。

期間中は、対外的なレースには出場せず、筋力をつけることに集中します。今までレースを通しての経験は多く積んできましたが、今の私に必要なことは、自らの弱点を分析し確実に克服していくことです。そして、9月の全日本選手権、10月の国体でレースに復帰する予定です。これらの大会も、あくまで、最終的な目標である東京五輪のための中間目標・通過点として捉えています。

2020年から逆算して、今は大切な土台づくりの期間です。悔いの残らないよう、自分自身と向き合っていきたいと思えます。町民の皆さまにはいつも温かく見守っていただき、とても感謝しています。皆さまの期待に応えられるよう今年も頑張っていきますので、応援よろしくお願ひします。



◀「確実に『ごつく』なってパワーをつけます！」と今年の抱負を話してくれました。

ここにも、一つの物語。
広報かわねほんちょう

動画で地域の魅力を発信 12/18

「住民ディレクター」養成講座の成果報告会が開催されました

住民自らが企画・出演・撮影などを担い情報発信を行う「住民ディレクター」を養成する講座の本年度開催分が終了し、成果報告会が山村開発センターにて開催されました。

講座は昨年8月から4回開催され、7名の町民が受講しました。報告会では、制作した動画をテレビ番組に模した形式で発表し、地域の観光資源や偉人にスポットを当てた動画に、約30人の来場者は興味深く見入っていました。制作された動画は、動画投稿サイト「YouTube」の川根本町チャンネルにて公開する予定です。

カヤックを体験取材した動画▶



制作した動画のテーマについて、受講者自らが説明しました

12/23・12/24

楽しく学ぶ I T 技術

I T 人材の育成を目的とした「I T キャンプ」が開催されました

コンピューターを動かすための仕組み(プログラミング)を学ぶ「川根本町 I T キャンプ」が若者交流センター「奥流」にて開催され、町内外の小中学生約20人が受講しました。

株式会社パドラック代表取締役の杉本等さんが講師を務め、受講者は2日間の日程で、プログラミング学習教材の「スクラッチ」を使ったゲーム作りに取り組みました。受講者は、慣れないパソコンの操作に悪戦苦闘しながらも、設定次第で思い通りに動かすことができるプログラミングの魅力を楽しみました。



休憩時間にも席を離れずに、ゲーム作りに熱中していました

決意新たに消防団出初め式を挙行 1/8

200人が参加し、中川根中学校で式典・閲団・訓練披露・一斉放水などを実施

式典で鈴木町長は「災害に強いまちづくりには、地域の実情をよく知る消防団と自主防災組織の連携が重要。これからも町の安心安全のため、災害に備えて欲しい」と期待を寄せました。諸田環団長は「今後も消防力の強化に努め、安全に配慮した団活動をお願いしたい」とあいさつしました。主な被表彰者は次の皆さんです。

【日本消防協会長表彰】精績章=小池克彦(副団長)【静岡県消防協会長表彰】特別功労章・勤続功労章(20年)=相藤直紀、中村靖久、大村一成、中村剛、望月克規、榑下晋士、榊原義明、中村克哉、長嶋洋晃、高木徹、高木徳幸、坂本基史、西村大吾



全分団が威勢良く一斉放水し、消防活動への思いを新たに